



## 第3章

# 世界の麻薬探知犬

いま世界の税関で 30 カ国ほどが麻薬探知犬を採用しています。この章ではそのあらしや世界の麻薬事情、そして日本の麻薬探知犬訓練センターの海外協力について紹介します。

## 主な国の麻薬探知犬の状況

麻薬探知犬の歴史はかなり古く、オランダ警察が採用した 1911 年からだそうです。しかしほとんどの国



(イギリスの麻薬探知犬)

### 第3章 世界の麻薬探知犬

は 1970 年代からです。

日本の場合には 1979 年の<sup>どうにゅう</sup>導入です。現在は約 130 頭が全国で活躍しています。世界の麻薬探知犬導入<sup>じょうきょう</sup>国の状況をみてみましょう。

世界の多くの国で、麻薬探知犬によるたくさんの麻薬摘発があります。また、国によって摘発された麻薬の種類には特徴があります。

中国税関では 1991~2003 年までに 376kg が摘発され、その多くがヘロインです。カザフスタンでは年間 350~400 件摘発されており、この国でも主にヘロインです。インド、モルジブ、ケニアは主にコカインです。



(イギリスの麻薬探知犬とダミー)



(アメリカの  
麻薬探知犬)



(マレーシアの麻薬探知犬)

## 世界の税関のいろいろな探知犬

日本の税関では、麻薬探知犬のほかに 2002 年に爆発物探知犬が導入されました。

世界の国々ではこの他に、警察犬・<sup>けいさつけん</sup>軍用犬・<sup>ぐんようけん</sup>盲導犬・<sup>もうどうけん</sup>介助犬・<sup>かいじょけん</sup>聴導犬・<sup>ちょうどうけん</sup>などを採用しています。仕事の範囲が違うからでしょう。

オランダではタバコも探します。

モンゴルでは毛皮や酒も探します。

アメリカでは<sup>ばくやく</sup>爆薬の他、<sup>しへい</sup>紙幣も探します。

オーストラリアでは白い粉(コカイン、ヘロインなど白色の麻薬)に重点をおいているそうです。





(マルタの麻薬探知犬)



(インドネシアの麻薬探知犬)



カザフスタンの麻薬探知犬



オランダの麻薬探知犬





モンゴルの麻薬探知犬



デンマークの麻薬探知犬



## 2 麻薬探知犬訓練センターの

### こくさい 国際協力

日本の税関では、第二次覚醒剤乱用期（112 ページ参照）の始まる 1979 年、新しい麻薬発見の方法として麻薬探知犬の導入に踏み切りました。当時、日本の税関職員はアメリカで研修を受けたり、麻薬探知犬の提供先を探したりして大変な苦勞をした末、現在の麻薬探知犬訓練センターの基礎を築きました。その後オーストラリアなどの援助も得て、麻薬発見のための研究努力を続け、現在のように、我が国の麻薬密輸入阻止にはなくてはならない存在になりました。

現在では、日本の麻薬探知犬訓練センターは世界に対して麻薬探知犬育成の面から国際協力を進めています。財務省関税局・税関では毎年世界の税関にいろいろな技術協力を実施していますが、麻薬探知犬の技術協力もその大切な一つです。

この国際協力は、1990 年から国と国との技術援助プログラム研修コースとして実施されています。以来、毎年実



~~~~~  
施され 2009 年末現在、15ヶ国（韓国・中国・香港・モンゴル・フィリピン・マレーシア・インドネシア・ベトナム・インド・ケニア・モルジブ・ウズベキスタン・カザフスタン・ロシア・ミャンマー）が対象となり、100 名以上の研修生を受け入れてきました。

研修内容は、日本の麻薬探知犬の活動方法を説明したり、麻薬探知犬の育成訓練を通じて麻薬探知犬をかつよう活用する方法やけんこうかんりほう健康管理法などについて教えることです。

また、麻薬探知犬訓練センターでは、国内の研修のほかに、外国へせんもんか専門家（ハンドラーや育成訓練しどうしゃ指導者（インストラクター））を派遣し、麻薬探知犬の訓練やぎじゅつしどう技術指導を行っております。

例えば、2004～5年にはインドネシア・ケニア・カザフスタンへ専門家を派遣し、現地において訓練や指導を行っています。

各国とも麻薬は大きな社会問題となっており、その密輸取締りについて苦勞しています。そんな中で、麻薬探知犬について成功している日本に対して、専門家の派遣を要望しているのです。

派遣国により指導内容は異なってきます。インドネシア・カザフスタンは、既に我が国と同様に麻薬すで



**日本の麻薬探知犬訓練センターによる  
外国での研修**



**インドネシアでの研修風景**





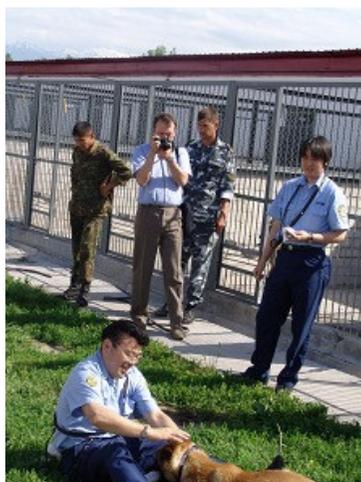
探知犬の訓練センターが設置されており、麻薬探知犬をもっています。しかし、育成訓練指導者（インストラクター）が不足しているため、効果的な麻薬探知犬の育成や活用ができないなどの問題点があります。一方、ケニアは麻薬探知犬の導入を決定したばかりです。どのような施設しせつがいか、麻薬探知犬の維持の仕方、訓練の方法、インストラクター・ハンドラーの養成など多くの課題があります。

今後も麻薬探知犬訓練センターは積極的な技術ぎじゆつ援助協力えんじょきょうりょくを通じて、世界の麻薬探知犬の発展に貢献していくことでしょう。



カザフスタン麻薬探知犬スタッフと  
(2005年6月)

### 第3章 世界の麻薬探知犬



カザフスタンでの研修風景



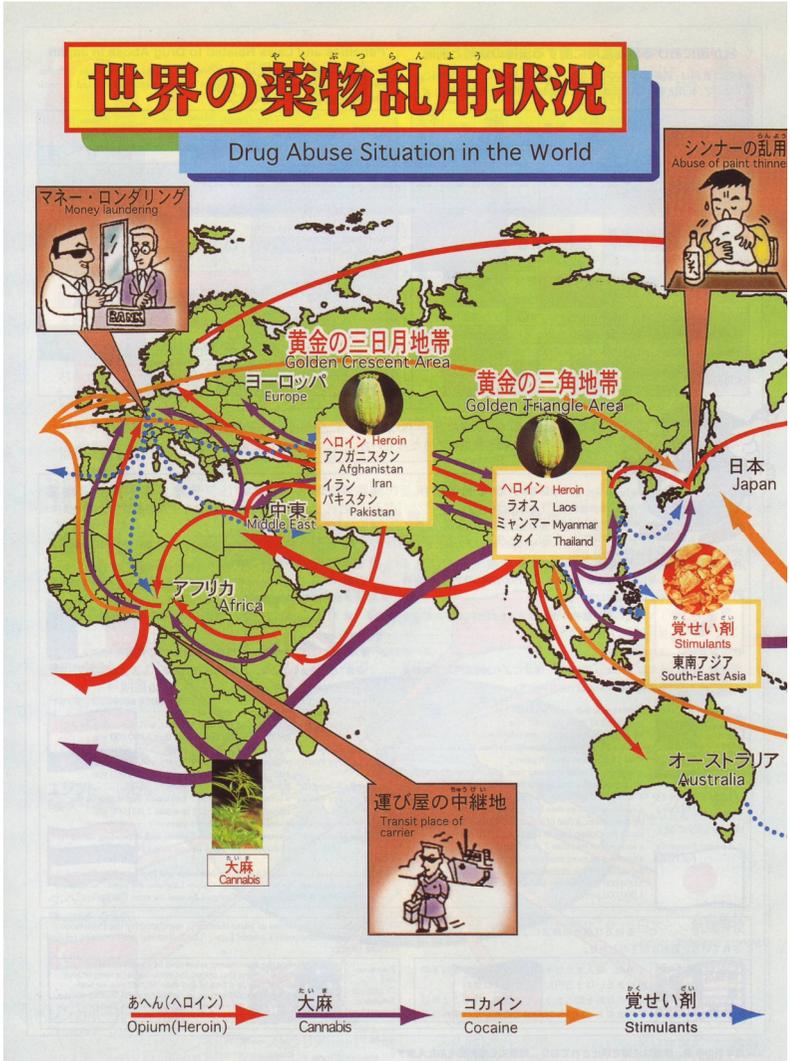
## 麻薬探知犬のご褒美はいろいろ

日本ではダミーの引っ張り合いですが、国により違うようです。骨をあげたり、頭をなでたりする国もあるそうです。コング、鉄パイプ、テニスボール、プラスチックパイプで遊ぶなど、いろいろです。



第3章 世界の麻薬探知犬

世界各地で麻薬が生産され、乱用されています





(麻薬・覚醒剤乱用防止センターの資料から)

ハンドラーインタビュー

NHK プロフェッショナル仕事の流儀

(2013.4.22 放送)に出演 石川 雄

問：麻薬探知犬ヨモギ号とペアを組んでからどのくらいの期間ですか。また、麻薬探知犬ヨモギ号の性格、特徴について

答：ヨモギ号とペアを組んでから、2年2ヶ月になります。

ヨモギ号の性格については、人に対しては甘えん坊、他犬

に対しては若干勝気じゃっかんかちきなところがあります。人に例えると、お転婆娘てんぼなすめといったところです。

特徴については、環境おくに臆することなく、自ら進んで麻薬を探す

のが非常に好きな、意欲的な犬です。又、麻薬の匂いが出ているのを感じると力をはたけていると思います。

さらに、ハンドラーとタグ・オブ・ウォー（綱引き）をするのが好きで、時には唸り声を上げながら「取れるものなら取ってみろ！」という挑発的な感じで向かってきます。

問：麻薬探知犬のハンドラーになることを希望されていたのですか。

答：麻薬探知犬が活躍していることは承知しており、麻薬探知犬の業務には興味きょうみもありましたが、まさか自分がハンドラーにな





れるとは思ってありませんでした。

問：麻薬探知犬のハンドラー業務で楽しかったこと、大変だったことは。

答：楽しかったというよりも喜びを感じたことは、空港で預託

てにもつ  
手荷物の検査をしている際にリュック  
サックに対して反応があったので調べ

てもらったところ、中から大麻の欠片かけら  
がわずかに出てきた時です。能力維持

のうりよくいじ  
くんれんなど  
訓練等、自分の取り組んでいることが  
間違っていないと感じたときに非常に  
喜びを感じます。大変なことは、やはり



麻薬探知犬も生き物なので、こちらがやってもらいたいことが  
犬になかなか伝わらずか噛み合わない時です。こういう時はお  
互いが苦勞し、犬に対しても申し訳なく感じます。

問：NHKの「プロフェッショナル 仕事の流儀」に出演されて、ど  
のような反響がありましたか。

答：番組が放送されている時間帯に一斉に多くの方々から電話  
やメールの連絡がきました。

また、放映後、空港内で業務を行っているとき他部門の職員  
の方や知人に「テレビを見たよ！」と声を掛けられました。改

めてテレビの影響力えいきょうりよくの凄さすごを感じました。